



体 協 だ よ り

レッツスポーツひたちなか

ひたちなか市体育協会

URL <http://www.hitachinaka-taikyo.jp/>

発行・編集 ひたちなか市体育協会 広報紙編集委員会 〒311-1292 ひたちなか市和田町二丁目 12 番 1 号

ひたちなか市教育委員会事務局スポーツ振興課内 電話 029-273-0111 内線 343、029-219-7373 直通



公益財団法人のスポーツ振興

公社理事長 永盛 啓司

ひたちなか市体育協会の皆様方には、日頃よりスポーツの振興にご尽力を賜り、心から敬意と感謝を申し上げます。

本公社は、昨年 4 月 1 日に公益財団法人の認定を受けました。これにより、芸術文化やスポーツ活動等を通して公共の福祉の増進を図ることを従来に増して求められております。

このため、本公社の事業のうちスポーツの分野につきましては、管理事業として指定を受けている総合運動公園や石川運動ひろばなどのスポーツ施設を、市民が安心して利用できるよう、これまで以上に適切な維持管理に努めてまいります。そして、運営事業につきましては、オリンピック出場者とともにジョギングやスポーツ教室を楽しむオリンピッククデーランや歴史探訪ウォーキング、テニス・体操・サッカー等教室の開催などスポーツの「する」楽しさを体験していただく参加型の事業の充実にも努めてまいります。また、サッ

カーなどでしこリーグやプロ野球、バスケットWリーグなど様々なプロスポーツ事業を開催し、スポーツの「見る」楽しさを体験していただく観戦型の事業も引き続き行っております。

本年はソチ冬季オリンピック、そして、サッカーのワールドカップブラジル大会とスポーツのビッグイベントが目白押しです。きっと、このひたちなかに限らず、日本中がスポーツの熱気に包まれることでしょう。

本公社は、今後とも、ひたちなか市体育協会の皆様方のお力添えをいただけるながら、市民の方がスポーツに親しみ、楽しさを感じ、またスポーツをすることにより心身ともに健やかになりますよう積極的にスポーツの振興に努めてまいりますので、どうか、よろしくご理解とご協力をお願い申し上げます。



五輪 2 大会連続メダリストのワイナイナ選手（ケニア）の応援に応える参加選手たち（第 62 回勝田全国マラソン大会）

目次	
公益財団法人のスポーツ振興	1 頁
第 2 回ヘルスバレーボール大会	2 頁
社会人リーグ・オリンピッククデーラン	3 頁
三浜駅伝・勝田全国マラソン裏方奮闘記	4 頁
スポーツライト	5 頁
専門部だより	6 頁
スポーツドクターアドバイス	7 頁
野田副会長のご逝去を悼む	7 頁
平成 25 年度体協振興大会報告	8 頁

第2回 2013ひたちなか市 ヘルスバレーボール大会報告

「2013 ひたちなか市ヘルスバレーボール大会」が、平成25年12月8日、ひたちなか市総合運動公園総合体育館において盛大に開催され、9地区のコミュニティ組織から各3チームがエントリーした27チームと前年度優勝チームを合わせた28チームで熱戦を繰り広げました。

ヘルスバレーボールは、生涯にわたって、いつでも、誰でも、手軽に楽しむことができる新しいスポーツであり、ひたちなか市体育協会が豊かな市民生活の実現を目指して、スポーツ推進委員会と連携して、3年前から普及・推進に取り組んできました。

本大会も昨年に引き続き2回目を迎え、また7月にも第1回市民大会も開催され、場内も熱気で盛り上がりを見せていました。

また、11月に本競技発祥の地である流山市の大会にも「前渡を明るく住みよくする会体育部会」の他2チームが参加し、交流の部で「みなと waiwai クラブ」が準優勝しました。

本大会は、出場28チームを7ブロックに分け、8分間、1セット3試合を戦い、その後、7ブロックの上位2チームが決勝トーナメ

ント戦に進み、残りブロック3位・4位のチームがフレンドリートーナメント戦を戦い、最後に、それぞれ順位を決定しました。

体育館いっぱい到大歓声が響き、熱戦が展開され、第2回チャンピオンに「ユニコーンチーム」(前渡地区)が輝きました。7月の市民大会に優勝した「みなと waiwai クラブ」(湊中地区)は、決勝で1点差で敗れ、2冠を逃しました。第3位は阿中地区のアジックスと平中地区のくじらの大ちゃんでした。

昨年の大会と比較して、各体育部会を中心に定期的に練習がなされ、さらに練習試合も積み重ねられ、さらに練習試合も積み重ねられ、レベルアップした姿を感じました。また、中学生の参加もあり、ボールを最後まで諦めずに、追っている姿に感動しました。

ヘルスバレーボールが市民のスポーツとしてさらに定着されるよう期待するものです。

(広報委員 助川記)



準優勝 みなと waiwai クラブ (湊中地区)



優勝 ユニコーンチーム (前渡地区)



第3位 アジックス (阿中地区)



第3位 くじらの大ちゃん (平中地区)

特集 社会人リーグ観戦記

日立ハイテク、
地元で今季初勝利

第15回Wリーグひたちなか大会が11月30日にひたちなか市総合運動公園体育館において開催されました。今回は、本県の日立ハイテック・ガーズ VS アイシンAWウイングスの試合が地元で観戦できるとあって、館内は試合前から日立のオレンジカラー一色になっていました。

試合に先だって行われたセレモニーでは、地元津田女子ミニバスケットボールスポーツ少年団4名による両チームの高木・山田ヘッドコーチ並びに小笠原・佐藤キヤブテンに花束贈呈がありました。前回までの戦績は、アイシンAWが2勝4敗、日立ハイテク6戦6敗ということで、両チームとも思い通りの試合展開ができていないチーム同士の対戦となりました。前半は、両チームともに、マンツーマンディフェンスでゲームがスタートしました。第1クォーターは日立ハイテクの井35天野のドライブインで先制し、その後も主導権を握り、21-12と9ポイントで終了しましたが、第2クォーターは、逆にゾーンディフェンスに変えたアイシンAWが、日立ハイテクのミスを誘い、徐々に流れを変えていき、31-30と1点差ま



クーガーズのねばり強い攻め

で詰め寄り、前半を折り返しました。後半は、第3クォーターに逆転を許し、#3高橋や#24富永のシュートで応戦したのにもかかわらず、42-47アイシンAWのリードで終了。第4クォーターに入り、日立ハイテクが粘り強いデフェンスで逆転また逆転の連続で、終了間際にフリースローが決まり、61-61の同点とし延長戦に突入しました。#24富永、#31池内の3点シュートが連続で決まり、リードするも、アイシンAWは、逆転を最後まで狙いましたが、あと一歩届きませんでした。70-69の1点差で制し、地元で今季初勝利を収めました。本間会長も会場に足を運ばれ、大歓声の中で応援に参加され、日立ハイテクから今季初白星をプレゼントされました。

(広報委員 助川記)

2013オリンピック ひたちなか大会

スポーツの楽しさを伝え、広めていくというスローガンのオリリンピックデーランのひたちなか大会（10回目）が11月24日に総合運動公園で行われました。

アンバサダーの宮下純一さん（競泳）がトーチ台に聖火を点火し、大会の幕開けを告げ、次に楽しいけれど少しきつめのドナルドの準備体操で体をほぐしました。その後、3 Km・5 Kmのジョギングやウォーキングがあり、さらに、チャレンジ体力測定やタグラグビー体験教室が開かれました。1歳から82歳の参加者が心地よい汗を流し、午前を終りました。

午後は体操（鹿島丈博）、バレ
ーボール（多治見麻子）、陸上（佐
藤光浩）の各教室が開かれ、それ



オリンピックたちによる開会式



オリンピックとの5Km ジョギング

ぞれオリンピックからアドバイスを受け、参加者たちの技量がみるみる上達していきました。『スパイクを受けたよ』と答えてくれた女の子の笑顔が楽しかった1日をよく表わしていました。総参加者数は延2291名でした。

(広報委員) 高場・清水記

第 68 回三浜駅伝競走大会 過去最多の 200 チームの参加

師走の風物詩でもあります三浜駅伝競走大会が 12 月 1 日に開催されました。過去最多となる 7 部門、200 チーム、1205 人がひたちなか市と大洗町にまたがる海岸沿いのコースを一本のタスキに想いをこめて駆け抜けました。今回で 68 回を迎える伝統と歴史ある大会が、雲ひとつない青空の中、絶好のコンディションで、昨年と比べてチーム数は、41 チーム、出場者数においては、246 人増えて、両方ともに過去最多記録を更新する大会となりました。

本年度は、県内消防本部 25 チームの参加があり、日頃の鍛錬の成果を発揮されました。また、今回も地震で災害に見舞われた本市と姉妹都市を締結している宮城県石巻市と那須塩原市のチーム（石巻 RC・那須塩原市陸上競技会）も参加し、大会を盛り上げました。

大会結果は、中学男子の部では緑岡中 A、中学女子の部では常澄中、高校男子の部では水戸工業高校 A、高校女子の部では茨城キリスト高校 A、一般男子の部（1 部）では那須塩原市陸協、一般男子の部（2 部）では那須町、一般女子の部では太田一桜ノ牧合同チーム、そして水戸工業高校 A が 16 回目

の総合優勝に輝きました。なお、茨城キリスト教学園高校は、12 月に京都で行われた第 25 回全国高校女子駅伝競走大会に出場し、都大路を力走しました。

東日本大震災から 2 年 9 カ月が経過しましたが、ひたちなか市・大洗町ともに震災以前を凌駕する賑わいを目標に、まち全体がひとつになって取り組んでおります。

本年度も、那珂湊漁協女性部の皆さんによる「いわしのつみれ汁」が選手はもちろん応援の方々にも振る舞われ、身も心も温かくなりました。また、沿道の市民からの大きな拍手と温かい声援に支えられ、一人ひとりの頑張りにより、地域を元気にする活力が生まれた三浜駅伝競走大会でもありました。

（広報委員 助川記）



駅伝ランナーたちの先陣争い

第 62 回勝田全国マラソン大会 裏方奮闘記（2）

今年も恒例の勝田全国マラソン大会が 1 月 26 日（日）に開催され、全国から昨年よりも約 2 千人多い 2 万人余りが参加しました。今回も大会運営の屋台骨は 2 千人余りのボランティアが支え、本体協からも約 500 人が各種ボランティアに汗を流しました。そこで、そのボランティア活動のいくつかをここに紹介することにします。

まず、これまでになく今大会で目立ったのは、バナナの配布でした。出発前の選手の腹ごしらえに、完走した選手の栄養補給に 2 万本のバナナが用意され、某社労働組合の皆さんが配っていました。



2 万本のバナナの配布

また、2 万人の参加者の荷物預かりも大変な仕事で、荷物を詰めたビニル袋へのゼッケン番号の記



袋ナンバー記載所の大奮闘

載はサッカー協会の皆さんが汗だくで担当しました。一方、各選手の完走タイムは各選手のシューズに付けた IC チップの信号で自動計測され、サーバー上に集計されます。それ故、日立グループが担当した記録証の発行は、ゼッケン番号を入力するだけで瞬時に行われていました。

（広報委員 蝦名記）



記録証も瞬時の発行

ス ポ ッ ツ ラ イ ト

☆ いろいろな場面で スポーツを楽しんでいる方々に スポットライトをあててみました ☆

かけがえのない経験
ひたちなかりーグ

鈴木 琉晟

「琉晟、受けてみるか？」監督から声をかけられたのは日本代表トライアウトの推薦試験でした。一昨年 12 月 25 日の一次試験から始まり、三次試験合同合宿を経て最終選考となりました。約 190 名から 18 名に絞られ、僕はその中に残っていました。12 U ベースボールワールドカップの優勝に向けてチーム作りが始まりました。

僕はキャプテンをやることになり、チームをどうまとめれば優勝できるか考えました。羽田空港で大勢の方に見送られ、暑い台湾に着きました。ホテルに入ると、そこには明日から戦う色々な国の選手達がいきました。160 cm の身長僕でも小さく思える程海外の選手は大きかったです。暑さや国の違いに戸惑っている時間はありません。早速、到着当日から近くの公園で練習しました。

初戦のチェコ戦は 15 - 0 で勝利しました。そして、日本代表チームは、フィリピン、イタリア、メキシコ、ブラジル、タイペイと戦い、予選全勝で決勝トーナメントに進出しました。決勝トーナメントでは日本とベネズエラのみが全勝だったため、優勝も夢ではないとチームが今まで以上に一丸と

なりました。しかし、決勝トーナメントではパナマに勝ちましたが、アメリカに敗れ、三位決定戦となっていました。こんなに悔しい思いをしたのは初めてで、チーム全員が涙を流して悔しがりました。三位決定戦でベネズエラと戦いましたが、2 m 近い長身のピッチャーが 120 km/h もの速さのボールを投げてきました。デッドボールや本塁上のクロスブレイなど熱い戦いの末、見事、日本代表が 8 - 2 で勝利し、メダルとカップを手にする事ができました。

『世界大会三位』と優勝は逃してしまいましたが、日本代表でのキャプテンであったことはかけがえのない経験ができたと思います。これもひたちなかりーグの皆さんや両親の協力があったからで、今後は 15 U で日本代表となり、世界大会でまた活躍したいです。



12U ベースボールワールドカップ
第 3 位のメダルとトロフィーを抱えて

那珂湊高校・カヌー部

顧問 五位渕 智

本校カヌー部は私が赴任した翌年平成 17 年から学校の特別な計らいにより部として設置が認められました。しかも部員がいなかった状態でのスタートであり、不安もありましたが、学生時代からカヌーを専門に行っていた私にとつては、不安よりもむしろ期待と嬉しさに満ち溢れていました。

ここで本校で行っているカヌー Sprint 競技について簡単に紹介いたします。カヌー Sprint は湖や川などの流れの少ない場所にて、主に 200 m と 500 m の距離で着順を競うスポーツです。競技艇はスピードが出るよう非常に細く設計されていますので、素人が乗ると途端に転覆しますが、慣れると他のカヌーでは体感できないスピード感を味わえるのが魅力です。日本ではまだマイナー競技ですが、国体やオリンピック種目になっており、近年日本人も競技力が向上し、国際大会にて決勝に進出する選手も増えてきました。本県も全国レベルに追いつけるよう強化をはじめ、平成 21 年には関東大会優勝、平成 22 年には沖縄インターハイ及び千葉国体にて本校生徒より本県で初めての入賞者を輩出することができました。今後

益々全国で戦える選手の育成に励んで行きたいと思っています。

現在部員は 1 年生 6 名、2 年生 2 名の計 8 名で活動しており、キャプテンの鴨志田と副キャプテンの砂押がチームを良くまとめます。練習は主に那珂川で行い、多いときには一日 30 km 近く漕ぐこともあります。夏は水面からの照り返しと戦い、冬は悴む手の痛さと戦うなど、ある意味自然が相手の競技であるため、生徒達は肉体的には勿論精神的にも逞しく成長します。日々彼らの成長を目の当たりに出来るのが私の最大の喜びです。



那珂湊高校カヌー部員の精悍な勇姿

平成 31 年茨城国体 翌年東京オリンピックで活躍する選手の発掘育成を夢見て更なる発展を目指し精進していきますので、今後もご支援の程よろしくお願いします。

専 門 部 だ よ り

一中地区体育部会の

活動について

部会長 近藤 保夫

私たち体育部会は、一中地区地域のふれあいを広める会の専門部として地域スポーツ指導員、スポーツ推進委員および部会長推薦委員計 41 名より構成され、スポーツレクリエーションを通じて、地域住民の健康づくりと親睦を深めることを目指して活動しております。

部会主体事業として、4 月のソフトボール大会を皮切りに、三世代交流レクリエーション、ファミリーバドミントン、ヘルスバレーボール、ゴルフ大会を開催して、800 名を越す方々にスポーツを楽しんでいただいております。特に、三世代交流レクリエーション大会（グラウンドゴルフ、ペタンク、輪投げ）は、約 300 名の方々が参加する大きな行事であります。体育部会では、理事研修会等を通じて審判および実技研修を重ね、運営の円滑化に努力しています。

グラウンドいっばいに和気あいあいとプレーを楽しんでいる姿に接し、また、まだ少数ではありますが、小学生チームやファミリーチームが地域の人たちと交流する姿を見ると、運動を通じて地域の人の連帯を図るという体育部会の存在意義を実感しております。

一方、本会事業である運動会では、地域の方々の協力を得て競技全般を担当しています。小学生による入場行進演奏、中学生の放送審判、お昼休憩時演奏への参加は、地域運動会の雰囲気づくりに大きな力を発揮しています。また、コミセンまつりでは、青空市場を担当して、顔なじみの方々と交流を深めております。



三世代交流レクリエーション大会（開会式、輪投げゲーム）

少子・高齢化の時代、明るく活力ある地域づくりを図る上で、スポーツを通じた交流はますます重要になっていくに違いありません。

ひたちなか地区

剣道連盟の活動について

理事長 宮田 正順

本連盟は、ひたちなか市と東海村の各職域（日製関係、市役所、刑務所など）や各道場（剣道・居合道）などの会員で構成され、会員数は 400 名を超えています。本年度の活動の概要を紹介いたします。

剣道伝達講習会を 5 月に開催しました。本連盟の指導員を茨城県剣道連盟主催の伝達講習会に派遣し、内容の伝達を行いました。質の高い剣道を目指した指導法・審判法・日本剣道形について伝達して頂き相互研鑽を行いました。

4 月に 50 名、9 月に 44 名の一級審査を実施しました。中学生の受審者が多く、礼法や基本の指導を行った後に審査を行い、全員が合格できました。

6 月に松戸体育館で第 13 回少年剣道大会を開催しました。約 200 名の小中学生が参加し、初心者基本比べを、小中学生は学年と男女で 11 のクラスに分け、個人戦を行いました。初めて試合を体験する人も多く、普段味わえない緊張感と達成感を味わいました。

12 月に第 60 回市民剣道大会を開催しました。開会式では居合道の白雲錬館の先生方による模範演武を拝見しました。居合と杖道の

演武で、理合いに裏付された動きとその形の奥深さに感動しました。また、試合は個人戦と団体戦を行い、個人戦には二段以下の部に 32 名、三・四段の部に 25 名が参加しました。団体戦は、1 チーム 5 名で計 18 チームが参加しました。いずれも有段者による気迫溢れる熱戦が繰広げられ、剣道振興に有意義な大会となりました。本年度の団体優勝チームは水戸少年刑務所でした。

その他ひたちなか市中学校体育連盟と連携して、6 月と 9 月に剣道の審判員を派遣しました。また、本連盟主催の合同稽古会を毎月第一日曜日の午前 10 時から 1 時間程実施しています。今後も会員への情報伝達に努め、剣道の地域浸透を図りたいと思います。



居合道の模範演武



スポーツドクターアドバイス

勝田病院 整形外科 浦川圭二先生

インナーマッスル

最近スポーツをする人達の筋力強化で、特にインナーマッスルに注目している方が多くみられます。胸板の大胸筋や力こぶの上腕二頭筋のように、外から見えるアウトマッスルに対してインナーマッスルは骨や関節に近いところにある外からあまり見えません。深層筋と訳されていることもあります。この二つに明確な区別はありませんが、一般的に大きな力を使う時にアウトマッスルが働き、姿勢を整えたり、スムーズな動きにするためにインナーマッスルが働くようです。関節の動きを安定させたり、衝撃からうまく受け身をとったりする働きがあります。そのため綺麗なフォームや、カッコいいダンスをするために必要な筋肉です。鍛える必要がありますが、アウトマッスルとのバランスを取る必要がありますので、そのトレーニングはなかなか難しいです。例えば、体幹のインナーマッスルを鍛える方法に、水泳の北島選手やサッカーの長友選手がやっている方でも多いと思いますが、四つん這いになり、右腕を前に伸ばしな

がら、左脚を後ろに伸ばして15秒から30秒保ち、反対側も同様に行い、これを1セットとして数セット行う方法がありました。かなりキツイですよ。あとロングプレスダイエットもお腹の周りのインナーマッスルを鍛える方法のひとつのようです。よく笑いますがお腹が痛くなる時がありますよね！あれは、インナーマッスルの筋肉痛のせいみたいです。たくさん笑うことも、インナーマッスルを鍛えることになるかもしれませんね。インナーマッスルを鍛えるのに早い動きは必要ありません。ゆっくり持続的な動きが必要です。ヨガやピラティス、太極拳などもインナーマッスルを鍛えるのに良いかもしれませんね。そしてインナーマッスルを鍛える最大の利点は、姿勢が良くなり全身の血行が良くなるため、代謝が上がります。脂肪燃焼効果が上がります。つまり理想的な体型維持が可能となります。アウトマッスルと一緒にインナーマッスルも皆さん頑張ってください。

野田副会長のご逝去を悼む



本協会の
野田文子副
会長が病氣
療養中のと
ころ、平成
25年11月
17日にご

逝去されました。享年76歳でした。我々の脳裏にはいつもエネルギーシユな副会長の姿が焼き付き、突然の訃報に耳を疑ったほどでした。野田副会長は、茨城女子短期大学教授として保育科で幼児教育の発展にご尽力されながら、本協会のレクリエーション協会会長としてもご活躍され、本協会の理事、常任理事を歴任された後、平成19年4月から本協会副会長として重責を担って来られました。

野田副会長の人柄は、みなさんご承知のとおり、とても気さくで、人の分け隔てなく、そこにいるだけで場が和んだばかりでなく、適切な助言で組織を常にリードして来られました。そして、いつも周りへの細やかな気配りも忘れぬ方で、この体協だより編集委員会にも何度も手土産をもって励ましにお出でくださいました。

茨城国体を数年後に控え、野田副会長にはまだまだご活躍いただきかったのですが、今はそれも

叶わず、唯々、悲しさと空しさがこみ上げてきます。野田副会長のこれまでのご尽力に深く感謝し、心からご冥福をお祈りいたします。

(体協だより編集委員会)

野田顧問は、昭和63年8月に勝田市レクリエーションクラブ設立総会において、副会長に選出されました。その後、念願でありました協会設立にご尽力され、平成5年6月に勝田市レクリエーション協会設立総会において、会長となりました。また、那珂湊市との合併にご尽力され、平成7年7月にひたちなか市レクリエーション協会会長に再選され、平成12年3月までの5年間会長として、協会運営はもとより地域におけるレクリエーション活動の活性化に多大な功績を残されました。会長を退いてからも、13年間顧問として、県内のレクリエーション指導者の養成に携わり、現在のひたちなか市レクリエーション協会の礎を築いて来られました。人柄から伺えるように、生涯レクリエーション一筋だったと思います。そのご苦勞に敬意と謝意を表し、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

(市レクリエーション協会)



平成 25 年度体育協会振興大会報告

本年度のひたちなか市体育協会振興大会が平成 26 年 1 月 19 日（日）にホテルクリスタルパレスで開催されました。各団体から 467 名が出席し、会長挨拶、来賓として樋ノ口英嗣市議会議長、海野透県議会議員の挨拶に続いて、本年度の功労者（加盟団体長推薦個人 33 名、体育協会長推薦個人 2 名・団体 2 団体）が表彰されました。また、受賞者を代表してテニス連盟浦川淳子さんが謝辞を述べられました。その後、レセプションに移り、小池勝利阿中学区明るく住みよい地域をつくる会会長の乾杯で始まり、アトラクションと

本年度の功労者は、次のとおりです。

◇加盟団体推薦

野球連盟 大内 直人
ソフトボール協会 黒澤 昇
バレーボール協会 高村真知子
サッカー協会 兼平 昭典
ソフトテニス連盟 益子 浩一
柔道連盟 大森 弘幸
弓道連盟 石山 明宣
スキー連盟 浅野 知之
テニス連盟 浦川 淳子
ダンススポーツ連盟 鈴木 俊
勝田なぎなたクラブ 佐藤 昌子
インディアアカ連盟 照沼ひろみ
ゲートボール連盟 大山 忠良
レクリエーション協会 照沼のぶ子
健康体操クラブ 井坂 定子
太極拳連盟 高橋 豊野
グラウンド・ゴルフ協会 吉田 活朗
一中地区体育部会 長沼 秀光
二中学区体育部会 山形 三郎
前渡体育部会 小滝 洋美

佐野体育部会 長谷川尚美
大島地区体育部会 飯田 明由
田彦中学区体育部会 水野いづみ
湊中学区体育部会 根本 吉則
平中学区体育部会 大塚 隆範
阿中学区体育部会 黒沢千鶴子
◇スポーツ少年団種目別部会推薦
サッカー部会 由木 美晴
ソフトボール部会 林 尚司
柔道部会 谷口真奈美
バレーボール部会 小松崎幸夫
レスリング部会 大澤 秀隆
卓球部会 宇佐美 晃
バドミントン部会 鈴木久美子

◇会長推薦（褒賞）

（個人）
水泳部 伊藤 剛
硬式野球部会 鈴木 琉晟
バレーボール協会 you 2
硬式野球部会
ひたちなかリーグスポーツ少年団

（体協事務局記）



邦楽の優雅な調べ（アトラクション）

編集後記

3・11以降、桜の季節を迎える
と普段の生活がいかに幸せである
かを感じます。皆様へスポーツを
とおして健康を維持して頂くため
の情報をお届けして9号になりま
すが、お役に立っていますでしょ
うか。今後とも、ご意見、ご要望
をお寄せ下さいますようお願いい
たします。

（高場）

【体協だより編集委員】

委員長 高場 恵子
委員 蝦名不二夫
委員 黒澤 里志
委員 齋藤 純子
委員 清水 敏治
委員 助川 保彦
委員 古川 由治